

一定以上のレベルの品揃えを

宇佐見稔久さん
(瀬戸)

ゆめあぐり野田の理事でもある宇佐見さん。開店前は、本当にお客様が来てくれるのかどうか心配だったそうです。「ふたを開けてみたら、すごいにぎわいで驚きました。新鮮で安全、品揃えがよく安価なことが評判を呼んだようです。ちょうど中国製食品の農薬混入や、汚染米の流出といった事件が起きたこともあったと思います」

さらに現在、取り組んでいるのは、高いレベルで品質を揃えること。「ある程度まではだれでも作れます、それ以上に良いものにするには大変。おいしさや安全性はもちろん、商品であるからには色や形、束ね方など、見た目にも気を使わなくてはいけない。講習のたびにそう言っています」

ご自身では、小松菜と枝豆を専門に栽培しています。「枝豆はゆめあぐりでも特に人気があり、幸手や春日部など、けっこう遠くから貰いに来る人も多い。野田を象徴する作物なので、もっともっと良いものにしていきたいですね」



常時さまざまな品揃えとなるよう心がけています



り組む障害者団体も組合員として名を連ねています。
そこで売場には、園芸福祉で収穫された農産物や、障害者団体が製造したパンやクッキーなどを並べたコーナーも設けられ、障害者が自分が作ったものを自分たちの手で販売することで、社会参加の機会が得られるだけでなく、自立支援と雇用創出の場としても活用されています。

昨夏、オープンした農産物直売所「ゆめあぐり野田」は、おかげさまで、市内外から多くの皆様にご利用いただいております。
6月中旬には、市の特産品の「枝豆」が最盛期になります。また、「周年記念セール」なども企画し、地元野菜やオリジナル加工品などもお薦めできるよう、組合員、店舗スタッフ一同で準備を進めています。

野田市農産物直売所
運営組合長 関根生夫さん



「新鮮さ」と
「高品質」も
心がけて

